

「はりまなだぶんがく」の紹介

令和3年10月末締め切りで「はりまなだぶんがく」第7号の原稿を募集中です。

力のない規模の小さな同人誌ですので、今のところ執筆メンバーは、東播磨（明石、加古川、高砂、稲美、播磨の3市2町）に縁のある人になっています。

「はりまなだぶんがく」は、平成28年12月創刊で、書くことは、活字に親しむ最良の手段と考えて始めたものです。

1人400字詰め原稿用紙30枚程度で、5～6人の執筆者、A5版、約150頁、小説、ノンフィクション、ドキュメンタリー、随筆など自由に何でも書いて頂けます。自由に発表出来る場を、地域に確保したいとの思いで刊行しました。

「はりまなだぶんがく」第六号（令和2年12月発行）の執筆者と作品について、ごく簡単に紹介させていただきます。

宇野優さんのメキシコ滞在記は、コロナで外出自粛、40年前の資料を見つけて、書いた青春の記です。書き加えて、単行本を出されることを期待しています。

瓜生八頼さんは、短編三作品を寄せてくれています。「忘れられない日」は、子供の目から見た大人の世界、素朴な疑問に、ハラハラさせながら読ませてくれます。

諏訪有希さんは、高校二年生で、はりまなだぶんがく第2号（平成27年2月発行）に「昼休み留学」、前号に「放送ガール」を発表、注目されました。そして今回、新しい境地を感じます。

木下明子さんの作品、お父さんの木下哲文さんの平成21年10月、播磨町中央公民館で「私と出会うために 自分史を作ろう」の講演を思い起こしました。東播磨活字文化の会にとって、この日から本物の自分史普及の活動をさせて頂いています。

塩澤岩光さんは、若いエンジニアが、技術革新の中で、葛藤しながら成長していく姿を、描いています。

「東播磨活字文化の会」は、13年目を迎えました。

会の原点は、活字が好きな人、活字が必要な人が集まって、現状社会の「活字離れ」を文化の衰退、こころの荒廃に繋がることと憂い、地域で活字に親しみ、活字にする人を応援する「活字に親しむ運動」を立ち上げ、「東播磨活字文化の会」を設立しました。

平成17年の「文字・活字文化振興法」の趣旨に共鳴し、「活字離れ」を少しでも食い止め、知力と活字に満ちた地域づくりをしたいと思っています。

東播磨活字文化の会の活動を、列挙すると、

- 1、平成21年～現在「文字・活字文化の日」の普及記念講演会を開催しています。
- 2、「播磨町に関わる著作品」を図書館等で調査、「目録」を出版し広く配布しました。
- 3、播磨町サークル連絡協議会のPR誌2冊を発行。その他、他団体へ協力しました。
- 4、毎年、「本づくり教室」を実施、参加者の作品集「はりまなだぶんがく」を出版。

平成28年・創刊号、平成29年・第2号、平成30年・第3号、第4号、令和元年・第5

号、令和2年・第6号を発行。「はりまなだぶんがく」は、会の活動の一つであるが大きなウエイトを占めている。

5、会員の活動を応援(単行本出版等)

①平成22年・今地千鶴子「家族への軍事郵便」、平成29年・第2版を出版。令和元年・写真句集「追憶」発行。②平成26年・神田敬子「氣の体操」、平成30年「氣の体操」の準備体操を出版。③平成29年・松山 清「ほどほどの幸せを」を出版。④平成30年・藤本明生「キリマンジャロでギター弾き語り」、平成30年加筆、第2版を発行。⑤平成30年・佐藤ひろみ「私のルーツ探し」を出版。⑥平成31年・植原邦子[時代の流れの中で思うこと]を出版。

6、「自分史」推進事業

①平成24年 加古川市高齢者大学・両荘寿大学教養講座 ②平成26年、平成28年、年3回 三田市立図書館「自分史の本を作ろう」講座・掌編自分史を出版。③平成29年、平成30年、令和元年、令和2年、年4回 豊田市中心図書館「自分史の本を作ろう」講座・掌編自分史を出版、令和3年継続予定。

などである。

一般的に同人雑誌はどれも財政難だと思います。「はりまなだぶんがく」も同じです。

執筆される方には、参加費8,000円を頂いています。これにより、執筆者に1冊贈呈させて頂きます。それ以上に必要な方には、1冊、1,000円でお渡ししています。

高額な参加費と思われるかもしれませんが、この金額にさせていただけるのは、県民局・こころ豊かな美しい東播磨推進会議の「地域づくり活動応援事業の助成金」を頂いておりますことと、活動の趣旨を理解し応援してくれているカブス出版のお陰です。このことがなければ、これまでにお手上げしています。

東播磨活字文化の会は、会の趣旨に賛同して何かと指導し、支援して頂いた有限会社木下ブンセイ出版の木下哲文前社長のお陰で存続してきました。前社長亡き後は、二女の明子社長が引き継ぎ、出版部門としてカブス出版を独立させました。前社長の意向を汲んで東播磨活字文化の会を支えてくれています。

インターネットで、「カブス出版」「はりまなだぶんがく」と検索いただきますと、活動や取り組みについて明らかにされていますのでここでは省略します。

「はりまなだぶんがく」を支えて頂ける方々の更なる出現、素晴らしい書き手の誕生など夢の実現を信じ、「本の活字離れ」を防ぐ活動を続けさせて頂いています。

東播磨活字文化の会

会長 宮尾尚子 事務局長 塩澤岩光

事務局 〒675-0154 兵庫県加古郡播磨町本荘 1-2-10

TEL/FAX 079-437-6527 iwamitsu@bb.banban.jp